

高齢者いきいき活動ポイント事業

高齢者の社会参加を促進するため、健康づくりや介護予防などの活動にポイントを付与しています。
 広島高齢福祉課(☎504-2143、☎504-2136)



社会参加のきっかけに

活動に参加してスタンプを集め、ポイント手帳を市へ提出した人に、奨励金を支給しています。奨励金はポイント数に応じて、最大1万円(1ポイント=100円)です。

ポイント手帳は8月末ごろ郵送します(※)。詳しくは、郵便物か市ホームページをご確認ください。

市HP ページ番号 252784



※障害者手帳を持つ人や要介護1～5の認定を受けている人は、ポイント手帳の交付の申し出があった場合のみ送付します。申し出をしたことのない希望者は、右記コールセンターへ

【対象】9月1日現在、市内に住所がある65歳以上の人(重度障害者福祉タクシー利用助成を選択している人は除く)

【ポイントの対象になる活動】●健康づくり・介護予防活動/1回につき1ポイント ●特定健康診査の受診など/1健(検)診などにつき2ポイント ●ボランティア活動/1回につき2ポイントか4ポイント(4ポイントは市が指定する活動に限る)

問い合わせ先 コールセンター
 ☎512-0290

平日8:30～17:15(年末年始、8月6日は除く)

新型コロナワクチン

ノバボックスの接種予約を受け付けています

市は、ノバボックスの集団接種会場を、8月18日(休)から追加設置します。接種の対象者など詳しくは、市ホームページで。

追加設置する会場(所在地) 基町フレド・パセーラ (中区基町6-78 パセーラ6階)

市HP ページ番号 206315



4回目接種の対象者が拡大されました

新たに、医療従事者など・高齢者施設などの従事者が、4回目接種を受けることができるようになりました。

■ 4回目接種の対象者(下線部分を新たに追加)

3回目接種から5カ月以上経過した次の人

- 60歳以上の人
- 18～59歳で①基礎疾患がある人・その他重症化リスクが高いと医師が認める人、②医療従事者など・高齢者施設などの従事者

※上記対象者のうち、18～59歳の方は接種券の発行申請が必要です

市HP ページ番号 279935



広島県新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター(☎513-2847、☎211-3006)

ショートメッセージサービス(SMS)を活用した新型コロナウイルス感染症患者への連絡について

新規感染者の増加に伴い、保健所業務がひっ迫しています。市は、重症化リスクの高い高齢者などを守ることに重点を置いた対策を確実に実施し、患者への連絡の迅速化を図るため、陽性になった人へSMSを活用した連絡を開始しています。

健康推進課(☎504-2622、☎504-2258) 市HP ページ番号 291440



医療機関などから届いた患者情報に基づき、保健所において、重症化リスクに応じて連絡方法を使い分けます。

■ 重症化リスクの高い人

- ①65歳以上の人、②40歳以上65歳未満の人のうち、重症化リスク因子となる疾病などが複数ある人、③妊娠している人、④保健所が必要と判断した人

従来通り、電話で療養案内を行います。

■ 重症化リスクの低い人

左記以外の人

原則、SMSで療養案内を行います。電話連絡は行いません。

核兵器のない世界の実現を目指し続ける

8月6日に行われた平和記念式典で、松井市長が世界へ向け平和宣言を行いました。全文を紹介します。
 平和推進課(☎242-7831、☎242-7452)



平和宣言

母は私の憧れで、優しく大切に育ててくれました。そう語る、当時、16歳の女性は、母の心尽くしのお弁当を持って家を出たあの日の朝が、最後の別れになるとは、思いもしませんでした。77年前の夏、何の前触れもなく、人類に向けて初めての核兵器が投下され、炸裂したのがあの日の朝です。広島駅付近にいた女性は、凄まじい光と共にドーンという爆風に背中から吹き飛ばされ意識を失いました。意識が戻り、まだ火がくすぶる市内を母を捜してさまよひ歩く中で目にしたのは、真っ黒に焦げたおびただしい数の遺体。その中には、立ったままで牛の首にしがみついた黒焦げになった遺体や、潮の満ち引きでがたがた移動しながら浮いている遺体もあり、あの日の朝に日常が一変した光景を地獄絵図だったと振り返ります。

ロシアによるウクライナ侵攻では、国民の生命と財産を守る為政者が国民を戦争の道具として使い、他国の罪のない市民の命や日常を奪っています。そして、世界中で、核兵器による抑止力なくして平和は維持できないという考えが勢いを増しています。これらは、これまでの戦争体験から、核兵器のない平和な世界の実現を目指すこととした人類の決意に背くことではないでしょうか。武力によらずに平和を維持する理想を追求することを放棄し、現状やむなしとすることは、人類の存続を危うくすることにほかなりません。過ちをこれ以上繰り返してはなりません。とりわけ、為政者に核のボタンを預けるということは、1945年8月6日の地獄絵図の再現を許すことであり、人類を核の脅威にさらし続けるものです。一刻も早く全ての核のボタンを無用のものにしなければなりません。

また、他者を威嚇し、その存在をも否定するという行動をしてまで自分中心の考えを貫くことが許されてよいのでしょうか。私たちは、今改めて、『戦争と平和』で知られるロシアの文豪トルストイが残した「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない。他人の幸福の中にこそ、自分の幸福もあるのだ」という言葉をかみ締めるべきです。

今年初めに、核兵器保有5か国は「核戦争に勝者はなく、決して戦ってはならない」「NPT(核兵器不拡散条約)の義務を果たしていく」という声明を発表しました。それにもかかわらず、それを着実に履行しようとしないうちに、核兵器を使う可能性を示唆した国があります。なぜなのでしょう。今、核保有国がとるべき行動は、核兵器のない世界を夢物語に

することなく、その実現に向け、国家間に信頼の橋を架け、一步を踏み出すことであるはずで。核保有国の為政者は、こうした行動を決意するためにも、是非とも被爆地を訪れ、核兵器を使用した際の結末を直視すべきです。そして、国民の生命と財産を守るためには、核兵器を無くすこと以外に根本的な解決策は見いだせないことを確信していただきたい。とりわけ、来年、ここ広島で開催されるG7サミットに出席する為政者には、このことを強く期待します。

広島は、被爆者の平和への願いを原点に、また、核兵器廃絶に生涯を捧げられた坪井直氏の「ネバーギブアップ」の精神を受け継ぎ、核兵器廃絶の道のりがどんなに険しいとしても、その実現を目指し続けます。

世界で8,200の平和都市のネットワークへと発展した平和首長会議は、今年、第10回総会を広島で開催します。総会では、市民一人一人が「幸せに暮らすためには、戦争や武力紛争がなく、また、生命を危険にさらす社会的な差別がないことが大切である」という思いを共有する市民社会の実現を目指します。その上で、平和を願う加盟都市との連携を強化し、あらゆる暴力を否定する「平和文化」を振興します。平和首長会議は、為政者が核抑止力に依存することなく、対話を通じた外交政策を目指すことを後押しします。

今年6月に開催された核兵器禁止条約の第1回締約国会議では、ロシアの侵攻がある中、核兵器の脅威を断固として拒否する宣言が行われました。また、核兵器に依存している国がオブザーバー参加する中で、核兵器禁止条約がNPTに貢献し、補完するものであることも強調されました。日本政府には、こうしたことを踏まえ、まずはNPT再検討会議での橋渡し役を果たすとともに、次回の締約国会議に是非とも参加し、一刻も早く締約国となり、核兵器廃絶に向けた動きを後押しすることを強く求めます。

また、平均年齢が84歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆77周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和4年(2022年)8月6日
 広島市長 松井 一實